

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300032		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームよしおか		
所在地	四街道市吉岡1803-5		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	平成30年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の情報共有について、馴染みの環境を作り上げる為に、日々の申送りの他、コミュニケーションノートを利用するなどし、利用者の些細な変化(状況、心境、家族との関わり等)を職員全体が周知徹底出来るよう取り組んでおります。
また、古くからご入居されておられる方が多く、提携医療機関との連携、ゆったりとした生活環境によって心身機能を維持できているのではないかと考えております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

提携医療機関による健診や訪問看護によって、利用者の健康維持についての基礎体制がしっかりできているほか、希望によって訪問リハビリや歯科を受けられる。道路向かいには同じグループの総合病院があるため、救急医療についても利用者の安心感がある。施設は木質系のドアを用いるなど利用者の生活してきた年代に配慮している。事務所はリビングや居室の廊下などを見通しやすい所に位置する構造となっている。運営推進会議録を出入口に設置するなどして、運営状況の“見える化”に積極的に取り組んでいる姿勢が認められる。日用品などの利用者負担に関わる費用を、利用者からの「預り金」からホームの一時「立替」方式に替えるなど、トラブル防止にむけた改善も進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度スローガンの掲示・理念及びその実行方法の掲示	理念や基本方針など施設入り口に、一見してわかるように掲示している。加えて外部評価書や運営推進会議の議事録なども設置しており、事業所が理念等を明確にして実践につなげようとする姿勢がうかがわれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい交流会への参加や、地域ボランティアによるギター演奏会などで地域との関わりを持っている	従来の関わりのほか、周辺地域の一般住民を対象として、介護体験のイベントを実施した。介護食の試食、被介護人としての体験をするなどを通じて地域の理解や関係を深める努力をしている。	グループホームの存在が地域住民に認知されていることが運営推進会議録で確認できる。民生委員等の力を借り、今回取り組んだイベントの類を今後も重ねることで地域の理解や協力が深まることが期待できる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社として医療講演等で認知症予防セミナーなどを実施している。事業所単体では実施できていないので、まずは施設内の介護力向上を目標に行っていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の状況(入退居・平均介護度・職員状況)に加え、ご家族様からのご意見などを中心に実施し、サービスの改善に努めている	年4回を目標に、これまで2回開催した。会議には利用者家族や市職員・民生委員も参加し、現況報告と利用者家族からの要望などを取り上げて、改善方策を話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者変更等もあり、関係が希薄であった。今後の課題としている	運営推進会議に高齢者支援課が参加しているほか、日常業務の中で連携を取っている。市内4つのグループホームからなる連絡協議会での話し合いもある。11月に管理者の変更があり、市との協力関係の構築に今後更に努力する考えである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において身体拘束に関する評価を定期的実践し、身体拘束に至る手前の「不適切ケア」についても検討を重ねている	全体会議を月に1回開き、その中で身体拘束はもとより、不適切な言動をしないよう話し合っている。居室から外部につながる仕切戸は施錠せず、出入りが音でわかるように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画のもと、高齢者虐待への理解を深め、不適切な介助内容等に対しては日常生活の中で互いに指摘し合えるような環境作りを促進している		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用し入居している利用者の実態を見ながら、施設内研修なども通じて理解を深めている状況であるが、不十分などところは多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に不明な点は確認し、契約当日までにお返事差し上げるように取り組んでいる。契約時は入居契約書・重要事項説明書・利用料金表・運営規定等を対面読み合わせにて実施しており、都度質問や意見を伺っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほか、家族会(年間二回)を実施している。全てのご家族に議事録を配布するほか、施設内玄関にも掲示し、面会者や外部の方にも閲覧可としている	利用者家族から指摘された問題について、会議の協議事項に挙げて改善方を示し実施するなど運営に反映させている。会議に参加できなかった家族にも議事録を配り、一般の閲覧にも供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・定期的な職員面談において、職員の意向を確認している。連絡事項や決定事項はコミュニケーションノートを活用し、情報伝達に努めている	管理者が途中で変更となり、本社から管理者が秋に着任し引き継いでいる。新しく着任した管理者は全体会議や個々の面談、連絡ノートによって意見等を汲み上げようとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社担当部署(運営事業本部)への高頻度の連絡体制が整っており、勤務状況は代表者が把握しやすい環境下にある。そのうえで、働きやすい環境作りにむけ、最善と思われる努力を継続している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「多職種連携研修」と題打ち、全国の介護施設従事者が集う研修等に参加し、事例検討会や介護知識・技術の向上、接遇面での強化などに取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ないのが現状。今後、施設の質向上を目的とし、同業者及び社内同形態施設(GH)との情報交換や体験研修等の整備を進めていく		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配などのお話を引き出せるような環境作りを最優先に考え、些細な言動や態度も見聞き逃さない様努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の段階より不安、心配な点はお伺いするように努めている。ご家族の意見や意思を尊重しながら、適時ご提案もさせていただくようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議などで各自が考える必要な支援をまとめ、適時外部機関(訪問リハビリ等)との調整を行なっている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、館内掃除、食器拭きなど、家事全般に役割を持って頂けるよう支援している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出促しなどを行い、出来る限りご家族と共に過ごす時間が増える様、関係性に留意しながら実践している	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	プライバシーに配慮しながら実施しているが、十分な支援ができてはいない状況と思われる	支援計画の策定時に利用者の来歴・生活歴に関する聞き取りが充分でないことから、これまでの関係を継続支援する上での情報不足が認識されている。そのため日常生活から情報を得て支援に活用しようと心掛けている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりや生活を見ながら定期的にリビングの席替えを行い、全ての利用者が全ての利用者に関われる機会を提供できるように努めている	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、自宅復帰という例があまり無いため、積極的に関わることは少ないが、ご相談等には随時対応させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安や心配などのお話を引き出せるような環境作りを最優先に考えている。介護サービス以外で、どのような支援ができるかも日常の申し送りなどで検討している	日常の支援の中で「話を聞くこと」を大切にしている。リビングの各テーブルに職員専用の椅子を設け利用者の横で傾聴するよう努めている。失語の方には、表情や仕草から把握しコミュニケーションノートに記録し全体会議でも共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族からの情報をもとに、本人のバックグラウンド明瞭化に繋げ、サービスの質向上を目指しているが、情報収集は未だ不十分さを感じる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、睡眠状況、精神状況、日常生活動作等の観察を行い、必要事項はコミュニケーションノートに記載し情報周知している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や全体会議を活用し、本人らしくいられる介護計画となるよう努めている	サービス担当者会議や全体会議で、家族の意向や長期・短期目標・サービス内容を検討し、押し付けないケアを心掛けた介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは6ヶ月毎に行いその都度家族の同意も得る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2時間おきの様子を個人記録に記載するようにしている。記録内容や方法については今後も検討を重ねていく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な発想という点では欠けている点も多い。外部研修等で見聞を広げ、より多くの介助方法や関わりが提供できるよう努力していく		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の残存機能や能力、ADL状況を把握して、無理なく関わられるプログラムの実践に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の訪問診療の機会までにご家族やご本人の意向や状況を確認し、お伝えしているようにしているほか、ご家族にもお声掛けし、可能であれば同席してもらうよう促している	入居前からのかかりつけ医の受診は家族が同行、施設提携医療機関の受診は職員が同行している。提携クリニックによる訪問診療が月2回あり、24時間対応もしている。週1回の訪問看護はバイタルチェック等の健康管理を行う。希望により訪問リハビリ、訪問歯科の受診ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは気さくに話せる環境下であり、利用者の細かな変化などにも適切な指示をいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院調整室担当者と施設管理者、計画作成担当者が密に連絡調整をとり、入院中の病状の把握や退院後の施設での暮らしにおける情報収集などを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に 重度化指針 、 看取り介護指針 の説明を実施するとともに、状態悪化の傾向がみられる場合には早期に意向の確認とケア内容の精査に取り組んでいる	契約時に法人の指針をもとに重度化や終末期における対応について説明している。重度化した場合は医師が家族に説明し、今後の介護について話し合い対応している。職員は年1回の内部研修に参加、外部研修を受講した職員が伝達講習なども実施し、チームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回のBLS研修において、緊急対応の所作確認、訓練を行うほか、訪問診療所への連絡体制等も整備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災被害については日中、夜間を想定した避難訓練を実施。今後地震災害を中心に水害、台風被害などの訓練も計画中	火災対策の自主避難訓練は昼夜を想定し年2回実施。消防署立会い訓練は年1回実施。災害時の連絡体制は整備され、職員は緊急事態に対する一時救命処置の研修を年1回受講している。非常時の食料などは3日分を備蓄している。	近隣住民に災害時に応援を受けたい旨を申し入れ、避難訓練にも参加をお願いするなど、更なる連携強化を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間関係を重視し、入居者ひとりひとりに合わせた声掛けや対応を実施している。表情や言動を見ながら、随時対応方法については検討している	聴かれたくない生活歴などに配慮し、一人ひとりに合わせた声かけをしている。通常は「〇〇さん」と呼ぶが、利用者の了解を得て、良い関係づくりには下の名前を呼ぶこともある。常時見守りが必要な利用者の居室出入口は、暖簾をかけて、プライバシーを確保している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間が許す限り、入居者の横で傾聴する機会を設ける様努めている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やむを得ず希望に添えない場合などは、誠意をもってご説明させていただき、ご理解頂ける様努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、着こなしなどには配慮している。私物に関しご本人からの訴えや、日頃の言動の中で気になる点があれば、計画作成担当者を中心にご家族へ連絡、相談する体制ができています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る作業を安全に行えるよう、見守りながら実践していただいている	個別対応の調理形態にしている。出来る方は食事の準備や片付けを職員と一緒にしている。職員は適度な声かけで、より楽しい雰囲気作りを心掛けている。クリスマスケーキや元旦のお屠蘇(甘酒)、調理師免許を持つ職員手作りおやつ(ゼリー)は好評である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状況、水分摂取量等は細かく記録している。摂取動作についても気が付いたことは職員間で共有するようにしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	セッティング・ブラッシング・うがいなど、できる部分と介助が必要な部分を判断し、出来る限り残存機能を活用した口腔ケアを行っている	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の無い方も出来る限りトイレでの排泄としていただけよう、必要に応じて2名介助で誘導、介助を行っている	排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い、排泄動作の出来るところを見極めての介助支援をしている。昼間リハビリパンツを使用している場合、夜間は必要に応じオムツを使用するが、適時誘導もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時水分摂取量の調整、訪問診療医指示のもと下剤のコントロールを実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気分や体調を考慮し入浴介助にあたっている。やむを得ず入浴日を変更する場合には誠意を持ってご説明し、ご理解が得られるよう努めている	入浴は週2回を基本に実施、入浴日をチェック表で確認している。入浴拒否の方は無理強いせず足湯や清拭対応、時には日を改める。入浴時にはバイタルチェックや保湿クリームを塗布するなどのケアをしている。ゆず湯、桧湯など変わり湯で香りを楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化や生活スタイルに合わせ、就寝、起床の介助を行っている。夜間就寝中は定期的に巡回し、良眠を妨げぬよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、氏名、いつの薬(朝・昼・夕)かを唱和し、指さし確認を行って誤内服を予防している。内服情報はひとつのファイルにまとめ、変更があった場合にもすぐに確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたいことができる環境、体制の整備を進めている。日々のコミュニケーションの中から抽出された要望をイベントや個人アクティビティに転嫁し、体調に影響が出ない程度に実施してもらうよう見守っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	空時間を見つけ、近所の散歩や買い物への支援を行っている	散歩や日用品・おやつの買い物に近隣へ職員と一緒に出かけている。施設には車椅子対応の車がある。初詣やお花見などは家族の協力をお願いしている。テラスや中庭でも日光浴や談話ができ季節の草花を楽しんでいる。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望等もあり、お金は持ってもらっていない。嗜好品等の購入は施設の立て替えで実施、購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より訴えがあった時は柔軟に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや装飾を行い、四季を感じて頂ける様努めている	施設は木質系の内装で懐かしい造りが意識され床は段差がない。リビングには手作りの大きな見やすいカレンダーや利用者の書道・季節感のある貼り絵が掲示されている。夏は竹をつないで流しそうめんをデッキでするなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を持っていく、お茶を淹れ声をかける、互いの居室を行き来するなどの関わりを提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に生活できる空間ということも考慮し、適時本人や家族と相談している	居室のエアコン・電動式ベッドは施設が設置している。筆筒・テレビ・小物など好みの物が持ち込みでき整理されている。各居室の引き戸式の扉には、職員が描いた利用者の笑顔の似顔絵が飾られていて、わかりやすい工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上の干渉をせず、表情やしぐさ、言動の観察で読み取る努力をしている		